

道路情報提供アプリ「みちラジ」の紹介

中日本高速道路(株) 保全企画本部 交通課

1 はじめに

高速道路上では、リアルタイムでの情報提供が求められ、社会的要請を受けて、昭和 58 年 12 月に東名高速道路での導入を皮切りにハイウェイラジオの運用を開始した。しかし、近年では、情報通信技術 (ICT) の急速な発展やパソコン・スマホなどデジタル端末の進化、SNS の普及も相まって、さまざまな情報の入手が容易になってきた。そのような社会情勢の変化に伴い、高速道路上における情報について、スマートフォン（以下「スマホ」と言う）を通じて、よりタイムリーに、かつきめ細やかに提供することを目的として、「みちラジ」と呼ばれるアプリを開発し、2021 年に首都圏の東名高速道路・中央自動車道の一部で運用を開始した。その後、機能拡充を行いながらサービス提供範囲を拡大し、2022 年 4 月からは中日本高速道路管内全線で利用可能となっている。本稿ではみちラジの概要や機能について紹介する。

2 道路情報提供アプリ「みちラジ」の概要

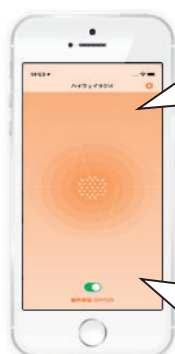
「みちラジ」は、高速道路を走行するお客さまのスマホの位置情報をもとに、渋滞、事故、通行止めや所要時間などについて、スマホの専用アプリを介して、プッシュ通知※により自動音声で情報提供することが可能である（図－1、2、3）。

高速道路上で音声により交通情報を提供する設備であるハイウェイラジオは、ドライバーの進行方向だけでなく反対方向の道路に関する情報まで提供しているのに対して、「みちラジ」は進行方向に限定した情報を提供できる。また、日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語の 4 カ国語で対応しているところも特長の一つである。

※プッシュ通知とは、機器を操作することなくアプリが自動的にお知らせを発信する機能



図－1 画面イメージ
(アプリ起動時)



通行止めの情報です。
〇〇インターから●●インターまでの間で、事故のため、通行止めになっています。

所要時間の情報です。
現在、次のインターから〇〇インターまで、△分ほどかかっています。

図－2 画面イメージ（音声受信時）と提供情報のイメージ

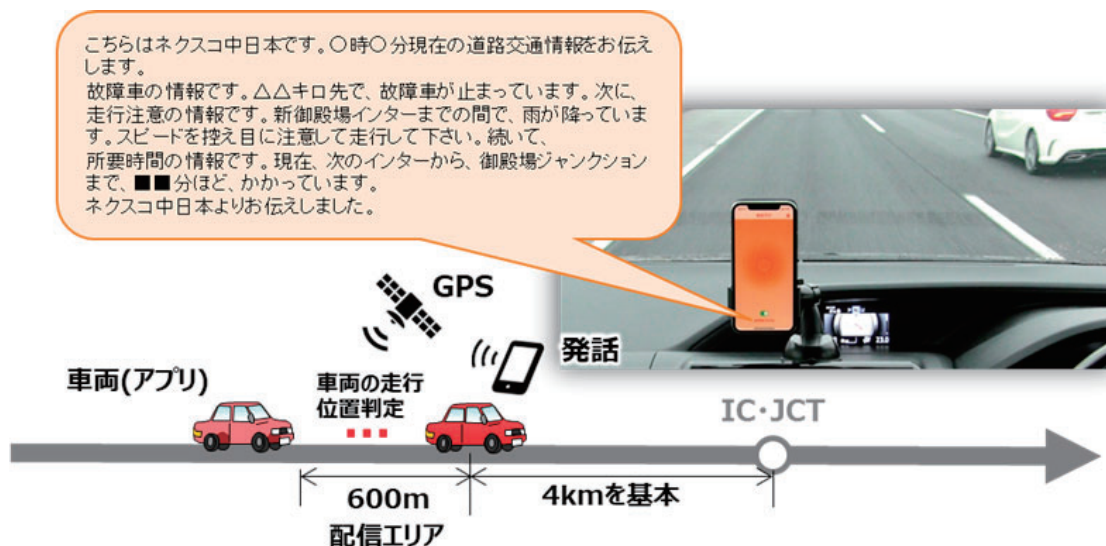


図－3 高速道路上での提供情報イメージ

3 「みちラジ」の機能詳細

3.1 定点での情報提供

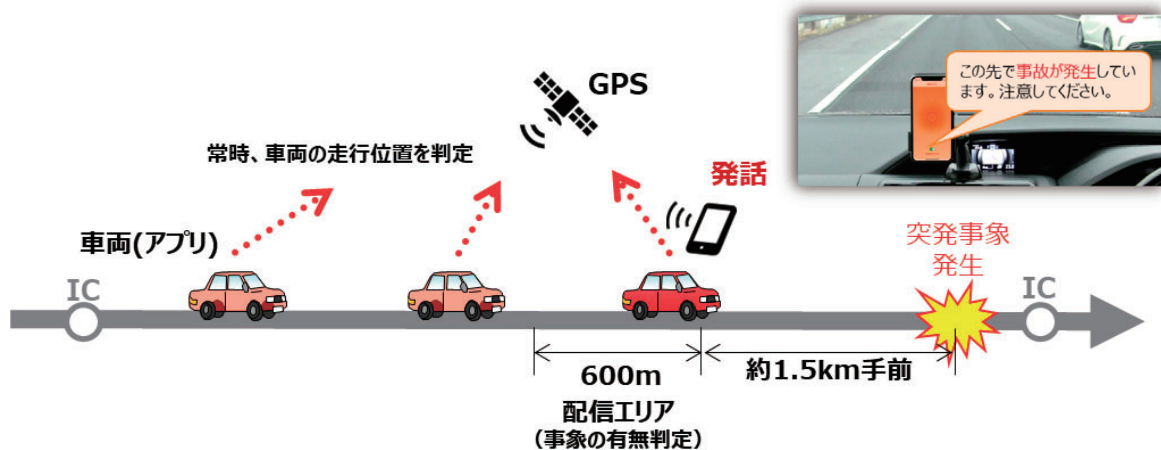
直近のインターチェンジ（IC）やジャンクション（JCT）など約 4 km 手前の地点で、これから先で発生した通行止め、渋滞、事故、交通規制などの道路交通情報のほか、所要時間情報やサービスエリア・パーキングエリアの混雑状況なども音声で提供する機能を有している（図－4）。



図－4 定点での情報提供イメージ

3.2 直近事象に対する注意喚起情報の提供

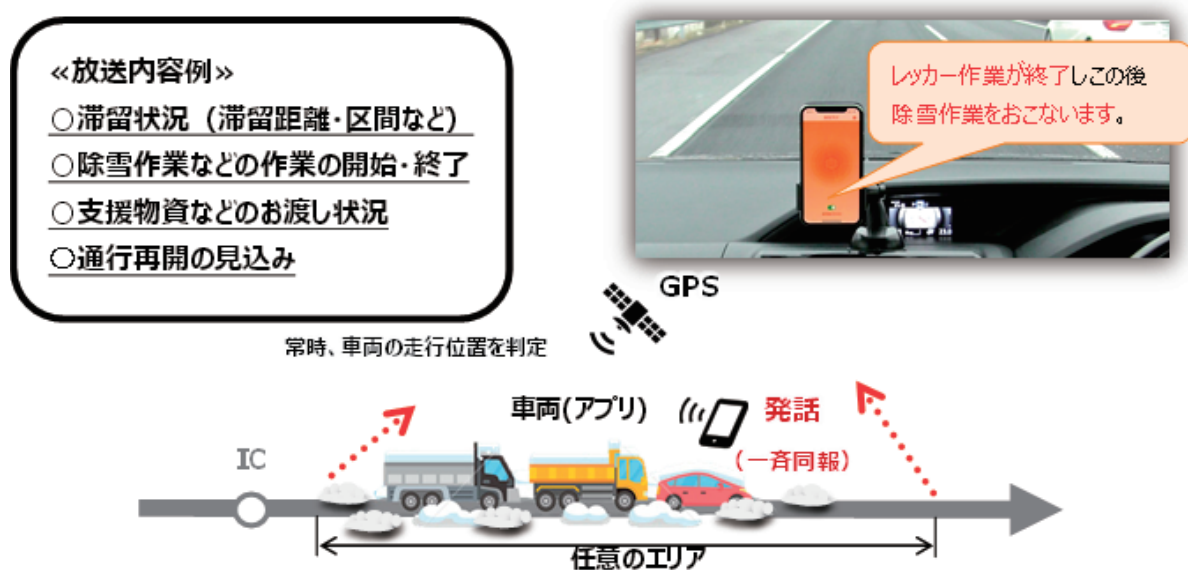
また、高速道路上で発生した事故や落下物などといった突発事象に対して、発生地点の約 2 km 手前で、自動音声案内による注意喚起情報を提供する機能が付加されている（図－5）ほか、過去に事故が比較的多く発生している地点の約 2km 手前で、注意喚起のための情報を発信することもできる。これらの機能は、これまで高速道路本線上の各種情報板や標識および看板などが主に担っていたが、今後はそのような設備が設置されていない箇所でも、タイムリーかつ効果的に突発事象をお知らせし、注意喚起を促すことが可能となっている。



図－5 直近事象に対する注意喚起情報提供イメージ

3.3 任意エリアへの一斉情報提供

大雪等により車両が滞留している高速道路上の任意のエリアに対し、一斉に除雪作業の状況などの情報を提供する機能である（図－6）。「3.2」同様、情報提供設備が設置されていない場所でもこのような情報提供が可能である。また、スマホの電源を一旦落として、再度「みちラジ」を起動した場合でも情報の入手が可能であり、スマホの充電残量を節電することができる。



図－6 任意エリアに対する情報提供イメージ

4 今後の展望

「みちラジ」の普及率は、運用開始直後から増加しているものの、高速道路を利用されるお客さまの全体数からすると、依然として少ない状態である。したがって、「みちラジ」の普及に関する広報（図－7）を継続的に実施し、利用率の向上を図っているところである。また、さらなる機能拡充に向けて検討を重ね、情報提供サービスの質・量の向上およびお客さまの安全支援に寄与していきたいと考えている。



【紹介 web サイト（スマホ版）】



【案内ポスター】



【web サイト QR コード】

※実施広報の例

図－7※ 「みちラジ」紹介 web サイト（スマホ版）及び案内ポスター

5 おわりに

高速道路管理者として、時々刻々と変化する交通・気象等に関する情報を正確に収集し、高速道路を利用されるお客さまに対して、適時適切に提供することが求められている。現在、情報収集・提供設備として、従前からの車両感知器、ハイウェイラジオや情報板などの他、最近では ETC2.0 路側機なども利用可能となっていることから、より高度な技術を有効活用することにより、一層きめ細やかな情報提供を実現して、お客さまサービスの向上や高速道路における円滑な交通流の確保を目指していく所存である。